

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

| | | | |
|---------|-------------------|------------|---------------|
| 事業所番号 | 2770103782 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 関西福祉会 | | |
| 事業所名 | 陵東館秀光苑 | | |
| 所在地 | 大阪府堺市北区長曾根町1199-6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 22年 3月 15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成 22年 6月 11日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居間には緑や花が多く、ゆったりとできる雰囲気作りにも努めている。また、後期高齢者が多いので皆さんのペースに合わせた生活の流れを共有出来る様にした。なかなか自由な外出など難しくなっているが、皆さんの要望を聞き取り、あるいは表にくい希望も汲み取れるように努めていきたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770103782&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター | | |
| 所在地 | 大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内 | | |
| 訪問調査日 | 平成 22年 4月 20日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元で農家を営む初代理事長が、「いつでも、誰でもが利用できる施設を作りたい」という強い思いにより、昭和58年に特別養護老人ホームを創設し、現在では高齢者、障がい者、乳幼児保育等の総合福祉施設を運営している社会福祉法人です。グループホームは8年前に3ユニットで開設し立地条件もあり、各ユニット6名定員となっています。職員の離職がほとんどなく、経験年数も長く、一人ひとりの尊厳を守り、「できるだけやりたいことを、やりたいように」を実現し利用者満足を大切にしながら質の高いサービスを提供しています。地域との交流も深く、運営推進会議にも、ボランティアだった方や施設に興味のある地域住民が参加し積極的な情報交換を行っています。地域で行われる季節の行事のお誘いがあったり清掃活動にも参加し、事業所が地域と孤立することなく、また利用者が地域とつながりを持った暮らしを継続していただける支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「地域の中で支えあい共に歩む」という理念を基本として掲示している。基本的な理念の再検討は行っていないが、職員会議カンファレンスを通じての意見の活用の機会としている。 | 「地域の中で共に支え合い、地域と共に歩む」を理念のメインテーマとし、その他に「ゆったりとした自由な暮らし」「穏やかで、やすらぎのあるある暮らし」「自分でできる喜びを感じる暮らし」「自分らしさや、誇りを持った暮らし」の内容を意識しながら各ユニットで話し合い、それぞれの個性を生かしたケアに取り組んでいます。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域の自治会や民生委員の方々との交流があり、校区の祭り、花見、七夕まつり、もちつき、焼き芋大会に参加している。これからは日常的な交流を持っていくことが今後の課題となっている。 | 地域で行われる、餅つき、焼き芋、七夕などの行事には地域からのお誘いもあり、利用者、職員も参加しています。法人が主催する夏祭りや納涼大会にも地域の方が参加し、交流を図る機会を持っています。また近所の保育園の慰問や地域の学校から小学生が訪れ、利用者と一緒に作品を作るという交流も行っています。地域の清掃活動にも利用者が参加しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている | 法人が行っている介護者教室の一環として職員が認知症理解に関する寸劇を職員が行い、それを通じて、地域の方々への認知症への理解の助けとなるように努めた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | 3 | <p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>地域の代表者や家族に事業所での生活や活動を写真や広報誌、ビデオ上映などで分りやすく報告している。また利用者数名にも参加してもらい率直な意見を出してもらえよう取り組んでいる。また、困難な事例を報告し、ケアについての意見を頂き改善のきっかけとなっている。</p> | <p>年6回の運営推進会議が定期的に実施されています。参加者は、利用者、家族、民生委員、知見者、地域包括支援センター職員、そして、ボランティアの方や、施設に興味のある近隣住民の方にも声をかけ行われています。ビデオで、利用者の日常生活の様子や暮らしぶりを伝え、おやつを試食もしてもらっています。会議の中で、利用者の食べ物の好みを聞き、地域の行事の際にはそれを考慮し、取り入れることもあります。</p> | |
| 5 | 4 | <p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p> | <p>運営推進会議メンバーに地域包括支援センター職員が含まれる、また研修を受け入れることにより取り組みや実情を伝えている。</p> | <p>管理者が、市の人権推進協議会の役員を務め、2ヶ月に1回の会議にも出席しています。市役所の方から、入居相談を受けることもあり、常にお互いが協力し合える関係作りができています。また生活保護の担当ケースワーカーも定期的に訪問があり、その際に状況報告を行っています。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内に委員会を設けており、何が身体拘束に当たるのか、具体的な項目を挙げて共通の認識としている。普段から拘束が無いように互いに指摘し、あるいは考えることが出来る雰囲気を作っている。玄関は夜間を除き施錠は行っておらず開放している。 | 身体拘束禁止の指針を作成し、日頃から職員同士で気がつくことがあればすぐに言葉を掛け合い注意するようにしています。また勉強会などでは、職員の対応や言葉使い、スピーチロック（言葉で言動を制止する）等を振り返り、話し合う機会を設けています。家族から車いすのベルト固定や、過剰なベッド柵設置の依頼がある場合、家族には身体拘束について事業所の意向を伝え、理解していただくよう努めています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人内に身体拘束廃止・防止委員会を設置しており、学ぶ機会を作っている。職員の言葉使いや振る舞いなど虐待や拘束にあたらぬか、互いに注意を払えるように意識付けしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できる様支援している | 文献・法人からの情報などを得ているが、個々の必要性を話し合った上での活用とまでは至らないので今後の課題である。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書に基づき説明を行い、家族や本人に理解してもらえるよう努めている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱は設置しているものの、実際の意見は挙がっていない。本人や家族からは率直な意見が言い難いという心情を職員は理解し、言葉では出しにくい要望を汲み取れるようにする。また、言いやすい雰囲気を作る。 | 年4回、行事参加の様子や生活状況を写真入りの「たより」で家族に郵送し、その際に職員が手紙を添えることもあります。年3～4回の家族会では職員と家族との間でコミュニケーションをできるだけとり、意見や要望が出やすい雰囲気作りに配慮しています。昼食の試食会も行い、家族の意見も取り入れるようしています。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議や勉強会で意見や提案を聞く機会を作っている。 | 各ユニットで話し合った意見をまとめ、月1回の全体会議で報告し、他のユニットからの意見も参考にしています。各ユニットのリーダーが職員の常勤、非常勤にかかわらず意見を聞く姿勢を持ち、そこから出た意見は苑長に伝え改善に向けて相談・検討をしています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員会議などで職場環境についてなど意見を拾えるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員・非常勤職員と共に研修の機会を設けている。参加者は勉強会にてその内容を報告し研修報告書は職員間で回覧し閲覧のサインをして内容を職員間で共有出来る様にしている。また書籍・情報誌を購入し自由に閲覧出来る様にしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 北区グループホーム会を作り毎月1回会議を開催し情報交換、勉強会、事例研究などを行っているが、管理者のみでなく職員間の交流の機会を増やしていくことが望まれる。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人からの訴えを傾聴し受け止めるよう努めている。直接的な訴えのみならず、日々の会話の中から職員が要望を汲み取れるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族から職員に言いやすい雰囲気作りに努める。気安さではなく、困っていることや不安に思っていること・要望なども受け入れられるよう関係作りに努める。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 緊急性を見極め本人と家族にとって必要な支援は何か法人全体で検討し対応できるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除機の音が聞こえたら「私がしましうか」と声をかけてくれたり、手が離せない職員に代わって他の利用者の椅子を引いて移動しやすいように気を配ってくれたりなど、入居期間が長期となっている利用者が多いこともあり、職員を助けてくれる雰囲気があり、職員もその事に対する感謝の気持ちを伝えるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族付き添っての受診・携帯電話での自由な連絡、季節ごとの衣替えなど家族ならではの役割を通じ、家族の思いを知り共に支えていくような関係を築いていく。また家族会の様な行事には手伝いが可能な家族の協力を得て一緒に行事を作り上げていく様に心掛けている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地元出身の方には、地元の夏祭りなどの行事に参加してもらったり、地元の知人と会える機会を作ったりとなじみの関係が続くように働きかけている。 | 昔住んでいた家を思い出した利用者に、職員がついて一緒に自宅まで帰ったこともあります。入居前からの友人に電話をかけたたり、近所の顔見知りの方が同法人のショートステイを利用した際に会いに行ったりする等、馴染みの関係が継続できるよう支援を行っています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事準備の役割や、移動・移乗の手伝い、そしてお互いに手を上げての合図など利用者同士の支えあいが見られるようになってきた。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居された利用者家族に運営推進会議のメンバーになってもらったり、ボランティアとして家事の手伝いや家族会の世話人なども行う等関わりがある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | なるべく以前からの暮らし方を継続出来るよう本人・家族から要望を聞くと共に普通の会話、仕草からも意向を汲み取れるように努める。職員間で情報の共有を図り、本人の思いを知るために把握、検討に努める。 | 日常生活の中で、利用者に関わっている時、ふとした瞬間に出た言葉や話を大切にし、すぐにメモをとったり、ケース記録に残すことで、職員間での共有を図りケアに役立てています。また、家族に今までの暮らし方や趣味などを聞き、利用者の希望や意向の把握に努め、一人ひとりに合った支援を心がけています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人の思い出話や家族との会話の中から生活歴や習慣などの把握に努めている。入所以前に他のサービスを利用していればその時の様子を詳しく聞くようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常でのちょっとした仕草や癖、表情なども含め、その人の日々の習慣やこだわりを読み取れるように努め、カンファレンスに臨めるようにする。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 10 | <p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p> | <p>本人や家族からの情報だけでなく、日常の会話や行動の中にも注意を払い、本人や家族の思いに沿っての計画となるように心掛けている。また、家族の訪問時には近況を伝え、新たな課題については解決のきっかけは無いが家族とも十分に話し合いプランに活かしている。医療面は看護師と話し合っ</p> | <p>ユニット毎にカンファレンス、モニタリングを行い、6ヶ月に1度介護計画の見直しを行っています。介護計画は家族にも説明し、署名をもらっています。家族からもできるだけ意見を聞き、反映しています。</p> | |
| 27 | | <p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p> | <p>記録類の閲覧や、夜勤者用の伝達事項、職員会議の資料などで情報の共有を図っているが、それぞれの気付きが介護計画の見直しまでには到らない状況である。</p> | | |
| 28 | | <p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p> | <p>医療連携体制を活かし、利用者の早期退院の支援、そして退院後に入院前の生活に戻りやすいように家族や本人の意向に沿った援助が出来るよう取り組んでいる。既存のサービスに捉われない多機能化へは今後も取り組むべき課題である。</p> | | |
| 29 | | <p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>地域の行事や校区の催しなどに参加している。また、ボランティアの方を受け入れ利用者の方々と協働して作業に当たってもらっている。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医を持たない利用者が受診必要と判断された際、本人・家族が希望する医療機関への受診として家族同行もしくは通院介助となっている。 | 法人診療所のドクターが主治医となり、利用者の健康管理を行っています。緊急時は24時間いつでも連絡が取れ、指示を仰ぐことができます。本人、家族が希望する医療機関へは、家族の協力のもと継続して通院しています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 生活の中に身体の変化や疾病があると捉え、疾病を持ちながらもいかに豊かに生活できるかを介護職・看護職と話し合っている。その結果が適切な受診・看護となるように努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院した場合、看護・介護サマリの提出により、利用者の情報を医療機関に伝え事業所の生活が少しでも継続できるように努めている。また、入院中もなるべく面会に行き、本人と顔を合わせた事により孤独感を持たない支援を行う。また病院関係者との関係作りにも努める。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 日々の関わりの中から、本人や家族の意向を早い段階から汲み取り事業所が対応しうる支援方法を示しながら話し合い、出来る限り事業所での生活が続けられるよう職員間で方針を共有している。地域でのチーム支援及び家族が職員への気兼ねから本心を伝えられない事の解決が今後の課題である | いつでも看取りができるよう、職員とは日頃から「看取りをすることは、今の生活の延長上にあること」という意識を持って、勉強会等を通じて知識深め、不安の少ないような取り組みをしています。看取りについては、主治医、家族、職員との話し合う機会をもち、関係者が連携して支援に取り組んでいます。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急連絡網、入浴急変時の対応、誤嚥や転倒時の対応、体調不良時のチェックポイントをファイリングして活用している。夜間緊急時や病院受診までの流れをフローチャートで表記している。勉強会で知識を得ると共に模擬体験を行うことで現場での即応性を高めている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | マニュアルを作成し2ヶ月に一度消防避難訓練を行っている。また、運営推進会議で地域の方々に協力を得られるよう働きかけている。利用者の歩行能力を把握し、対応できるようマニュアルにも盛り込んでいる。 | 自主消防避難訓練を2ヶ月に1回実施し、年2回は消防署の協力のもと消防訓練を行っています。避難時の歩行度合（歩行能力、認知能力）の一覧を作成し、職員が共有することで、スムーズな避難誘導が可能になっています。災害時に備え、水や乾パン等を備蓄し定期的に点検しています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがない様、言葉使だけでなく声の大きさや表情にも注意する。また、常に意識して、互いに指摘し合えるような雰囲気作りにも努める。個人情報やケース記録は厳重に保管し、知りえた情報を他で話すことが無いようにしている。 | 入社時には、全職員に対し守秘義務の誓約書をとっています。利用者の尊厳を重んじ、プライバシーに配慮したケアを心がけています。利用者に対する言葉使いで気になることがあれば、すぐに職員同士で注意するなどしています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の意向を尊重するのはもちろんだが、自ら意志を表しにくい方からは普段の会話や仕草、表情から汲み取れるようにする。また買い物の希望など要望に対しては用紙を作成し、申し出をしやすい環境を整える。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 大まかな一日の流れはあるが食べることより寝ていたいと話す方、何事も早め早めに行いたい方、自分の役割が気になってそれを早く済ませたい方など、その時の状況や体調によっての変化する希望にも柔軟に対応できるよう努める。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 外出着と室内着を使い分けて過ごしてもらい、日常の身だしなみにも気をつける方にその都度、「お洒落ですね」等の声掛けをするようにしている。自ら選びにくい方は好みの服装や組み合わせを外出時などに着てもらえるようにしている。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎日、朝昼食を調理場に取りに行く役割、出勤者に合わせて食器を用意する係、盛り付け係等それぞれによって食事が成り立っている事をそれぞれが感謝している。職員も同時に食べることにより、味付け、形態、量などを検証し、かたさ、食べにくさなどに対しても、すぐに対応できるようにしている。 | 朝・昼食は同法人の厨房から調理された食事が届けられ、盛り付け、配膳の手伝いを利用者と一緒にしています。お箸、湯呑は各自気に入ったものを使っています。誕生日には本人の好みを聞き、メニューに取り入れています。借りている菜園から野菜を収穫してきた時には野菜の皮むきなど利用者ができることをお願いすることもあります。職員も一緒に食事を摂り、会話も弾み、楽しい食卓で家庭的な雰囲気となっています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分・食事摂取量は記録に残して職員全員が把握できるようにしている。一人ひとりの状態により形状や、調理法を工夫しており、摂取量の低下がみられた方に関しても、栄養士を交えてのカンファレンスを行い支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内清潔の意義を充分理解した上で、声掛け・見守りを行い、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。必要に応じて歯科受診も考慮する。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にて排泄間隔を把握、トイレに誘う目安としている。スムーズな誘導が出来なくても、無理強いせず、食事の前や一休みした後などに自然な流れでトイレに行くことが出来る様に努めている。失敗してしまった時もさりげなく声を掛け、周囲に分らないようにするなど、本人の羞恥心も考慮する。 | 排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄のタイミングを職員が把握して、誘導や声かけを行っています。排泄の失敗があっても、誘導時間、紙パンツ・パットの見直しを行い、その方に合ったよりよい支援方法を検討しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | なるべく浣腸に頼らないように十分な量の水分を摂取出来ているか把握し、本人が好む飲み物の提供に努める。また、ヨーグルトや繊維質、冷たい牛乳などを活用し便秘の予防や解消に努めている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入ると気持ちいいけどそれまでがしんどいという方、2日置きの13時からと決めている方、入浴の行為を忘れた方、全介助の方など一人ひとりの意向に合わせた支援を行っているがゆったりくつろいだ気分での入浴には至っておらず工夫が必要と感じている。 | 各ユニットで、利用者の希望に合わせた時間帯や回数を調整し、利用者一人ひとりにそった支援を行っています。入浴を好まない利用者には入浴剤等を利用し、気持ちよく入浴してもらえるような工夫をしています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している | その人の今までの生活習慣に合 わせて昼寝をして休息を取って もらったり、居室の室温や明る さ、職員の足音、扉の開閉も注 意して夜間の安眠の妨げになら ない様になっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る | 服薬情報表を作成し薬に対して の理解に努めている。症状の変 化があれば看護師に連絡してい る。服薬情報表は職員が取り出 ししやすい場所にあり、利用者 の服薬の種類、量を確認し易い ようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている | 食事のメニュー書き、食事の準 備、掃除機かけ、行事予定表の 字を書いてもらう等それぞれの 役割を通じて利用者同士がお互 いを認め合えるような機会とな っている。習字を好まれる方 には月2回の習字教室へ、ハー モニカ演奏が趣味の方にはその 機会を日常の中、あるいは誕生 会などで設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望に沿って買い物、散髪などの外出を行っている、また家族に連絡を取り本人の希望する所へ外出している方もいる。地域の方には、校区での行事（花見や祭、もちつきなど）に招いてもらい協力を頂いている。 | 利用者の希望や習慣に合わせ、喫茶店や外食等個別で出かけています。日常的には近くの公園に散歩に出かけ、少しでも外気に触れられるよう外出の機会を作っています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理が難しい方は職員が管理しているが、その他の方は能力や希望に応じ本人が所持している。お金を使う感覚を無くさない為にもなるべく本人に支払いをしてもらう。また、所持金の残金を定期的にチェックしておく。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | 法人内の公衆電話や本人の所有する携帯電話により自由に家族とやり取りしてもらっている。郵便物は職員と一緒に郵便局に行く、あるいは預かる等して支援している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間には季節の植物を取り入れ、メダカやドジョウの水槽があったり、また炊事の音、匂いが立ち込めるなど、生活感を出すようにしている。カーテンを常に閉めるように求める利用者があり、日中でも暗くなってしまう事があるが、その時々の様子で対応している。 | 居間には一人掛けや二人掛けのソファがあり、思い思いの場所でくつろぎ、他の利用者と一緒に話をしたりすることができます。季節の花を飾り季節感を感じられる工夫もしています。居間と居室が別フロアとなっていますが、エレベーターも自由に乗ることができ、自由に行き来しています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者は自分で座る席を互いに決めており、そこが自分の居場所と考えている様子である。しかし居間では、その他のくつろげる場所を工夫する余地はまだあり今後の課題である。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人にとっての馴染みの物、写真、仏壇、コーヒーマーカー、猫のカレンダーなどを置いている。また、馴染みの物は何か日々の関わりで本人や家族より聞くようにし、本人が希望を言いにくい方は、殺風景にならないように職員が落ち着ける雰囲気作りに努めている。 | 居室にはベッド、机、洗面台の設置があります。昔からの趣味で得意だった絵画の道具や自分が描いた絵を飾り、利用者が居心地よく過ごすことができる工夫をしています。利用者の希望や状態に合わせ、フローリング、畳敷きの部屋を工夫して利用者にあった居室作りを工夫しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 他部署職員の協力を依頼しエレベーター昇降を自由に、玄関ドアをオープンにしている。 | | |